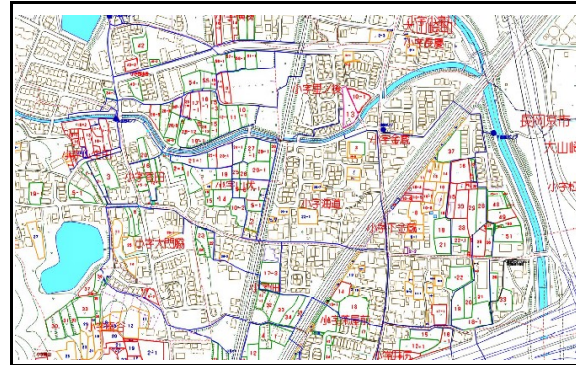


「町内全域の水路図を委員で確認、整備しました」

京都府 大山崎町農業委員会 大山崎町地区連絡会議

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	7人
○ 農地利用最適化推進委員：	0人
○ 事務局職員：	3人
○ 市町村行政との連携状況：	町職員が事務局兼任



2 地区の特徴、状況、課題

- 本町は市街化が進み、耕地面積は約25.3haで、一部の竹林を除き、大部分が市街化区域内農地である。
- 市街化が進む中で、生産緑地に指定されている数少ない農地をいかに保全していくかが重要である。
- 自給的な農家がほとんどであるが、営農意欲の強い農家も少数おられる。



3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 基本的に毎月の総会後、委員で本町の農業振興の在り方や今後の担い手などについて話し合いしており、それを地区連絡協議会として位置付けている。
- 農地転用に係る開発などにより、水路の動線が分かりづらくなっていたが、令和5年度に数か月に渡り話し合いを行い、町内農地に係る水路図を改めて更新した。
- 生産緑地指定に係る必要下限面積をこれまでの500㎡から300㎡に引き下げる要望等を記載した要望書を委員の話し合いにより作成、町へ提出。令和5年度に町から面積要件の変更等については、現時点では実施しない旨の連絡があったが、引き続き要望していくこととなった。

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 農業委員を地区の農家代表とし、令和3年度下半期から話し合いがスタート。令和4年度末に京力農場プランを実質化した。
- 他市町村は京力農場プランから地域計画へ移行しようとしていたところだが、本町は農地の大半が市街化区域内にあるため、地域計画を作成せず、京力農場プランの更新や町として今後の農地や農業の在り方を示す計画の作成を検討している。